



TITLE:

## 腎Oncocytomaの2例

AUTHOR(S):

佐々木, 昌一; 堀, 武; 野口, 幸啓; 渡辺, 秀輝; 和志田, 裕人

---

CITATION:

佐々木, 昌一 ...[et al]. 腎Oncocytomaの2例. 泌尿器科紀要 1989, 35(8): 1387-1389

ISSUE DATE:

1989-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/116632>

RIGHT:

## 腎 Oncocytoma の 2 例

安城更生病院泌尿器科 (部長: 和志田裕人)

佐々木昌一, 堀 武, 野口 幸啓

渡辺 秀輝, 和志田裕人

## TWO CASES OF RENAL ONCOCYTOMA

Shoichi SASAKI, Takeshi HORI, Yukihiro NOGUCHI,

Hideki WATANABE and Hiroto WASHIDA

From the Department of Urology, Anjo Kosei Hospital

Two cases of renal oncocytoma are reported. These patients were a 67-year-old man and a 74-year-old man who had incidentally been indicated to have a right renal mass lesion by echography in other hospitals. In both cases, enhanced computed tomographic scan showed a low density renal mass. In selective renal angiogram of the two cases, a spoke-wheel configuration of vessels could be seen in one case, but there was no evidence of renal mass in another. Total nephrectomy was performed in each case. Two masses were pathologically diagnosed as oncocytoma, constructed of large eosinophilic cells with granular cytoplasm and small regular nuclei. These two patients have been well for more than 2 years after the surgery. These are the 25th and 26th cases of renal oncocytoma reported in Japan before December, 1988.

(Acta Urol. Jpn. 35: 1387-1389, 1989)

**Key words:** Oncocytoma, Renal tumor

## 緒 言

腎 oncocytoma は以前は比較的稀な疾患とされていたが、最近の腎腫瘍に対する画像診断の進歩に伴い、その報告が増えてきている。われわれも2例の腎 oncocytoma を経験したので報告する。

## 症 例

症例1, 患者: 67歳, 男性

主訴: 右腎の精査希望

家族歴・既往歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1986年6月23日より心窩部痛にて近医受診中、腹部エコーで偶然右腎に腫瘍を疑わせる所見が認められたとのことで、精査のため8月6日当科を紹介された。

入院時所見: 胸腹部理学的所見に異常を認めず、血沈1時間値 8 mm, CRP 陰性、その他血液生化学的検査所見も正常であった。尿細胞診は陰性で、検尿は強拡大で1視野に40~50コの赤血球を認めた。

画像診断所見: 当科での腎超音波断層像では、右腎の上極に 48×29 mm, 下極に直径 23 mm の腫瘍像を認めた。内部エコーは均一で、腎実質よりいくぶん

低エコーな腫瘍であった。IVP で右上腎杯の圧排像を認め、CT scan では腫瘍部はほとんど enhance されなかった。腎動脈撮影を施行したところ、動脈相で上極の腫瘍の中心と思われる部に spoke-wheel 様の血管陰影を認めたが、下極の腫瘍部には定型的な所見はみられなかった。静脈相では上極の腫瘍は均一に淡く描出され、腫瘍周辺に被膜の存在を示唆する lucent rim を認めた。

以上の所見から悪性腫瘍も否定しきれず、右腎摘出術を施行した。

手術所見: 腰部斜切開にて後腹膜腔に入った。周囲組織との癒着はなく、腎は容易に摘出された。腎茎部および傍大動静脈リンパ節の腫脹は認めなかった。

摘出標本: 肉眼的には腎中央部から前面上極にむかう 45×30×27 mm の褐色調の腫瘍と、中央外側部の 28×22×20 mm の黄褐色調の腫瘍を認めた。境界は明瞭で色調は単一、出血壊死はみられなかった。病理組織学的には好酸性、顆粒状の広い胞体をもつ oncocyte からなる oncocytoma であった。

症例2, 患者: 74歳, 男性

主訴: 右腎の精査希望

家族歴: 特記すべきことなし

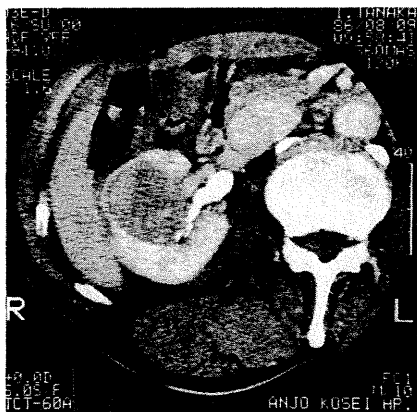


Fig. 1. Enhanced CT scan of case 1. Tumor area was not enhanced.

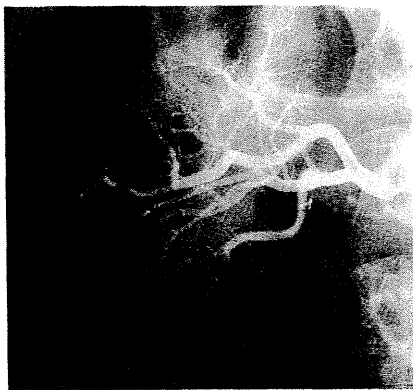


Fig. 2. Selective renal angiogram of case 1 (early arterial phase). Spoke-wheel configuration of vessels can be seen.

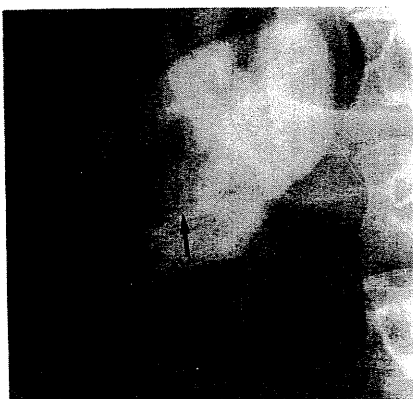


Fig. 3. Selective renal angiogram of case 1 (nephrogram phase). The tumor blush is homogenous throughout. The sharp smooth border of the mass and the lucent rim can be seen.

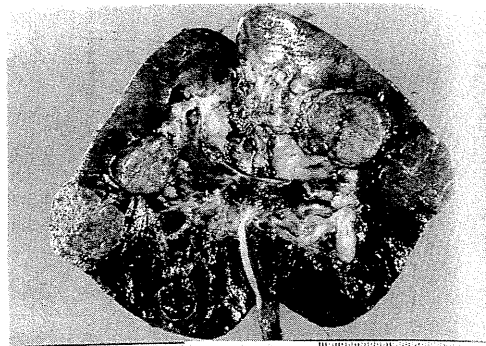


Fig. 4. Right kidney of case 1, gross pathologic specimen. Well-margined tumor without necrosis.

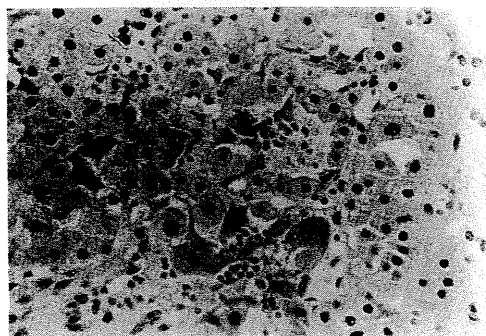


Fig. 5. Histological examination of case 1. Large eosinophilic cells with granular cytoplasm and small regular nuclei can be seen.

既往歴：高血圧症

現病歴：当院内科で高血圧にて治療中，腹部超音波検査で，偶然右腎下極腫瘤陰影を発見され，精査目的で1986年12月12日当科を紹介された。

入院時所見：胸腹部理学的所見に異常を認めず，血沈1時間値 3 mm，CRP 陰性，その他血液生化学的検査所見も正常であった。尿細胞診は陰性で，検尿は強拡大で1視野に10～12コの赤血球を認めた。

画像診断所見：超音波検査の所見では，右腎下極に内部エコー不均一で腎実質よりいくぶん低エコーな49×41 mmの腫瘤を認めた。IVPで右下腎杯の圧排像を認め，CT scanでは腫瘍部はlow densityに描出された。腎動脈撮影上，腫瘍部の血管像に異常所見はみられなかった。

以上の所見から悪性腫瘍を否定しきれず，右腎摘出術を施行した。

手術所見：腎は周囲脂肪織などを含め容易に摘出でき，腎基底部および傍大動静脈リンパ節の腫脹は認めな

かった。

摘出標本: 断面の肉眼的所見では, 右腎下極に 47×42×30 mm の弾性軟な暗赤色の腫瘍を認めた。境界は明瞭で色調は単一, 出血壊死はみられなかった。病理組織学的には症例1と同様に oncocytoma であった。

症例1, 2とも経過は良好で, 術後2年以上観察しているが, 再発・転移を認めていない。

## 考 案

好酸性顆粒状細胞質を有する oncocyte よりなる腫瘍を oncocytoma と呼び, この概念は1962年に Hamperl<sup>1)</sup> によって提唱された。臨床報告は1976年 Klein と Valensi<sup>2)</sup> による13例の腎 oncocytoma が最初である。本邦では1979年桜井ら<sup>3)</sup>の報告以後, 1988年12月現在までに24例の報告がある<sup>4)</sup>。

組織学的な腫瘍の増殖形式は管状, 充実型, 乳頭状を呈する。超微構造として細胞質はミトコンドリアで充満し, 他の organelle は認めにくい。肉眼的所見では, 断面は淡褐色であることが多く, 腎癌の黄色調とは対照的であるといわれている。

画像診断上, 超音波像や CT 像では特徴的所見はないとされるが, 血管撮影で特徴のある所見が見られることが多い。Ambos ら<sup>5)</sup>は血管撮影の所見として 1) spoke-wheel 様血管像, 2) 均一な腎陰影, 3) sharp な辺縁, 4) 不整血管がなく壊死を思わせる所見がない, 5) 動静脈シャントや pooling 像がないことをあげている。しかし腎細胞癌にもこれらの所見を呈するものもあり, とくに 5 cm 以下の腫瘍では特徴的な所見はみられないとする報告もある<sup>6)</sup>。

腎 oncocytoma が良性か悪性かについては様々な意見が述べられている。Lieber ら<sup>7)</sup>は腎 oncocytoma を grade 1: 腫瘍細胞が大小不同なく規則正しい円形の核と豊富な好酸性の胞体を持つ細胞から成っている, grade 2: より大きな不規則な核と, 細胞の大きさや細胞質に不同がみられる, grade 3: 核細胞質の異形性, 細胞の大小不同が強く核分裂像がみられるものと分類し, grade 1 62例, grade 2 28例の計 90例について検討したところ, grade 1 の症例では転移は認められなかったが, grade 2 のうち4例に転移死亡を認めたと述べている。Levi ら<sup>8)</sup>は grade 1 11例, grade 2 11例のうちそれぞれに2例ずつ転移を認めたと報告している。また van der Walt ら<sup>9)</sup>は, 腎周囲組織または腎盂への浸潤のあるときや, 静脈やリンパ管内での腫瘍の増生が認められるときは, 潜在的 malignant とみるべきであると述べている。

しかし本邦ではまだ転移例の報告はなく, この点に關しては今後長期にわたる follow up が必要であると思われる。

治療については, 術前に腎細胞癌を必ずしも否定できないこと, 稀ではあるが転移を認めた報告があることなどから, 根治的腎摘出術が適当であるとの意見も多い<sup>8,10)</sup>。しかしながら, 最近悪性腫瘍でも腎辺縁に存在するものに対しては腫瘍核出術を行うという報告<sup>11)</sup>もあり, 比較的良性と考えられる oncocytoma の治療として, 今後行われるべき方法かと思われる。

## 結 語

腎 oncocytoma を2例経験したので, 若干の文献的考察を加えて報告した。

## 参 考 文 献

- 1) Hamperl H: Benign and malignant oncocytoma. *Cancer* 15: 1019-1027, 1962
  - 2) Klein MJ and Valensi QJ: Proximal tubular adenoma of kidney so-called oncocytic feature. A clinicopathological study of 13 cases of a rarely reported neoplasm. *Cancer* 38: 902-914, 1976
  - 3) 桜井 勇, 内田俊和, 岡田清巳, 熊谷振作: 腎の "oncocytic" な良性好酸性細胞腺腫 (近位尿管腺腫—Klein and Valensi). *臨床病理* 27: 339-344, 1979
  - 4) 伊藤貴章, 栃本真人, 清水弘文, 平田 亨, 三木誠, 海老原善郎: 腎 Oncocytoma の1例. *臨泌* 42: 533-535, 1988
  - 5) Ambos MA, Bosniak MA, Valensi QJ, Madayag MA and Lefleur RS: The angiographic-patterns in renal oncocytomas. *Radiology* 129: 615-622, 1978
  - 6) Barth KH and Menon M: Renal oncocytoma further diagnostic observations. *Diagn Imaging* 49: 259-265, 1980
  - 7) Lieber MM, Tomera KM and Farrow GM: Renal oncocytoma. *J Urol* 125: 481-485, 1981
  - 8) Levi HJE, Alexander CA and Fleming S: Renal oncocytoma. *Br J Urol* 58: 12-15, 1986
  - 9) van der Walt JD, Reid HAS, Risdon RA and Shaw JHF: Renal oncocytoma. A review of the literature and report of an unusual multicentric case. *Virchows Arch (Pathol Ant)* 398: 291-304, 1983
  - 10) 才田博幸, 大山朝弘, 早川正道, 岩政輝男: 腎 Oncocytoma の1例. *西日泌尿* 50: 169-172, 1988
  - 11) 高寺博史, 宇都宮正登, 伊東 博, 板谷宏彬, 吉岡俊昭, 並木幹夫: 腎腫瘍に対する腫瘍核出術の検討. *日泌尿会誌* 79: 1544-1549, 1988
- (1989年3月8日迅速掲載受付)